

学園祭や創立120周年記念式典、邇摩高フェアなど、大きな学校行事が続いた2学期も、本日で終業です。行事のなかで連携・協働をし、それによって皆さんが成長していく姿、目標を設定して努力する姿、またお互いを認め合い受け止めようとする姿…など、さまざまな姿を見ることができました。1年生は系列選択に向け、2年生は地域課題をとらえ探究し、自らの選択肢を拡げ、3年生は何と言っても進学・就職に向けた準備に時間を費やした、多くの人にとって大忙しの学期ではなかったでしょうか。

11月には校内でインフルエンザの感染が急増し、臨時休校を余儀なくされました。そのためホームルームでの「人権学習」は、今学期は3年生しか実施することができませんでした。今回の便りではその3年生の感想も紹介するので、ぜひ読んでみてほしいです。

◎全校集会『自分と周囲を大切に

～使う言葉を意識してみよう～』

11月14日の全校集会で、「自分と周囲を大切にするために、ふだん使っている言葉を『意識する』」ことについて話をしました。そのなかで、次のような説明をしました。

- ◎ 私たちの脳は「主語」を認識できない
 - ⇒ 誰かに向けて発せられた言葉は「自分に」向けられたと脳は勘違いする
 - ⇒ ネガティブな言葉や攻撃的な言葉は、周囲はもちろん自分も傷つける

- ◎ 人は「意識」を向けたものしか「認識」できない
 - ⇒ 意識的に注意を向ければ、「見たいもの」・「見たい世界」を見ることができる

- ◎ 一方で、人は「無意識」にふれた情報や言葉を脳に蓄積していく



誰かを傷つける言葉を周囲に発しないことは言うまでもなく、自分自身に「自分はネガティブな言葉を使う人間だ」、「自分は人を傷つける言葉を使う人間だ」というレッテルを貼らないことです。私たちは、さまざまな問題や課題に直面しながらも、幸せになりたい、よりよく生きたいと願っているはず。だとしたら「幸せになれるような言葉」、「前向きになれる言葉」を意識的に使ってみることは、『大丈夫、大丈夫!』『できるできる!』『がんばってるよ!』『がんばった!』『よいこう!』などと、口癖をポジティブなものに変えてみませんか。

◎ 2 学期 『人権に関するホームルーム活動』

【3年生】学習テーマ：『**自他尊重の表現方法－コミュニケーション技能の獲得－**』

- ★ねらい
- ① コミュニケーションには3つの表現方法があること、コミュニケーション能力は技能としてみがいていくことができることを体験的に理解する。
 - ② 自他尊重の表現方法を学校生活に生かそうとする意欲を高める。
 - ③ 場面や状況に応じて、自他ともに尊重したコミュニケーションがとれるようになる。

友人関係や家族関係などにおいて、「言いたくても言えない」経験や「言ったつもりで伝わっていなかった」経験は誰にでもあるものです。“そんなつもりはなかった”のに相手を傷つけてしまって関係を悪くしてしまったり、自分が我慢することでストレスがたまったり…。今回の授業では「自分も相手も大切に自己表現」について学習しました。

＜皆さんの感想より＞

- ☞ 私は実際に“伝えたくても伝えられないこと”がよくあります。いつも遠回しに伝えるか、自分が何も言わずにすませるといことが多々あります。今日の授業のデモンストレーションの中で、SNSの場合、直接言う場合と違って何を気をつけたらいいのか学ぶことができたので、生かしていきたいと思います。
- ☞ 今日の学習で、コミュニケーションでは言葉を丁寧にわかりやすく補いながら使うことが大切だと感じました。相手に言いにくいことだったとしても、自分も相手も大切にしたい言葉で言いたいことはしっかり伝えるべきだと思います。
- ☞ 言葉の使い方、選び方、伝え方がとても大切だと思います。言葉ひとつ足りなかったり間違えてしまうだけで、関係や信頼も崩れてしまうなと感じました。いくら近い存在の人でも、言葉を十分に使って、丁寧に伝えていきたいと思います。
- ☞ 言葉で伝えるのはとても難しいと自分では思っていて、人間関係を気にして伝えたいことが伝えられないことが多いので、「ごめん」というワンクッションを使いながらトラブルなく会話できるといいなと思いました。
- ☞ 言葉は使い方によって相手への伝わり方が変わるので、改めて考えて使うと思いました。やっぱりSNSより直接言った方がいいと思うので、そうしたいです。『でも・だって』を変えて『ごめん・ありがとう』にしようと思いました。



コミュニケーションにおいて大切なのは、「相手の思いや考えを受け止めながら、自分の思いや考えも伝える」ことで、それによって問題を解決したりよりよい方向へ向かうことができるようになります。『何のためにコミュニケーションを取るのか』、『何を目指して伝えるのか』を考えながら、思いを言葉にできると良いですよ。「出来事」と「感情」を整理して伝えることもポイントです。3年生には、これからもスキルとしてコミュニケーション能力をみがいていってくださいね。

◎理解を深めよう『ハンセン病問題』



1年生は12月に公民科の授業の中で「ハンセン病問題」の学習をしました。今回は話題提供としてそのときの感想を紹介します。私たちには「国家賠償請求権」など、人権を確保するための権利が憲法で保障されています。しかし、人々の差別や偏見がなくならなければ、真に人権を回復させることはできません。ハンセン病問題について、何が「問題」であったのか、2・3年生も一緒に復習してみましょう。また、家族や周囲の人と話をするきっかけにしてください。

＜ハンセン病とは＞

- ☑ らい菌という細菌による感染症
- ☑ 感染力は弱く、感染したとしても発病することは極めてまれ
- ☑ 現在では治療法も確立し、早期発見と適切な治療により後遺症も残らない

＜ハンセン病問題とは＞

- ☑ 明治以降、国はハンセン病にかかった人を強制的に療養所に隔離した
- ☑ 国による隔離政策は、特効薬が発見された後も、平成まで続いた
- ☑ 国による隔離政策が、人々に「ハンセン病は恐ろしいもの」との偏見を植え付けた
- ☑ 元患者・回復者の方々の中には、故郷に帰れず今なお療養所で暮らす人もいる
- ☑ 患者や回復者の方、さらにはその家族に対する人々の差別や偏見がなくなっていない

＜皆さんの感想より＞

- 📌 動画を視聴しましたが、ハンセン病が療養所の職員のかたで感染した人は一人もいないと知り驚きました。そんなふうに感染力はほとんどなく、治療法もあるのに、回復後も療養所で過ごし続けたり、亡くなられた後も施設のなかで納骨され家族と再会できないままであったと知り、悲しくなりました。裁判でハンセン病の方が声をあげ国の間違った政策を指摘し、裁判で勝ち抜いてくださったから、こんなふうに今私たちが正しい知識を学ぶこと・知ることができるのだと思います。苦しんできた方々の思いは消えないと思うけれど、この先同じような思いをする人がいないように、正しい知識を伝え続けていかないといけないと思いました。
- 📌 ハンセン病にかかった人は、家族とも離れて暮らして、うつるからという「思い込み」によってすごくひどい言葉を言われたり、差別されていたということが分かりました。国の政策が間違っていたことは認められたけど、やっぱり差別や言葉での攻撃を誰か一人でもしてしまうと、周りの人たちは事実を確かめようともせず影響されてしまうのだと思います。今も差別などが消えていないので、それも問題だと思いました。私は患者さんや回復者の方の気持ちを考えられる人になりたいです。

<島根県の取り組みは>



昭和43年3月、現在の山陰中央新報の読者投稿欄に『私たちも里帰りさせてください』と題された文章が掲載されます。国立ハンセン病療養所長島愛生園の島根県出身者によるこの文章は、人々の心を揺り動かし、県民と行政が一体となった支援活動へと発展していきます。島根県は、当時設立された「島根県藤楓協会」と共同して、療養所に入所している方々の切実な声に応え、里帰り事業や療養所訪問等の交流事業、ハンセン病に対する正しい理解の普及・啓発活動などを行っています。

ハンセン病問題に対して、私たちにも出来ることがあります。それは正しい知識をもつこと、その正しい知識を周囲に伝えること、そして、元患者や回復者の方々、そのご家族の思いにふれたり想像したりすることだと思います。そして新型コロナウイルス感染症のような新たな感染症が拡大したときに、同じような差別や偏見の問題を二度と起こさないことではないでしょうか。私たちは、私たちの力で「人権」を守っていかなければならないことを、この学習を通して改めて考えさせられました。

【参考】・島根県藤楓協会リーフレット「里帰りの旅」(2023)

・法務省 MOJ チャンネル『家族で考えるハンセン病』(2023.12.18 閲覧)

・国立ハンセン病資料館 YouTube チャンネル『知っていますか？ハンセン病問題』(2023.12.19 閲覧)

☞「いつもこのような授業があると、『小学校の道徳で習ったのに』、『小学生みたいな授業だな』と思います。でも結局、一番最初に習うような簡単なことが一番大切で、一番難しいんだらうなと感じました。「ごめんね」と「ありがとう」はすごく簡単な4文字と5文字なのに、それが日常生活になると中々言えなかったり、変なところでプライドの高さが出てきてしまったりします。でも成人して自分の責任は自分で負う年齢になったので、「ごめんね」と「ありがとう」を大切にして、春からも頑張りたいです。」

…ホームルーム活動で人権学習を終えた3年生の感想です。コミュニケーションは、一番大切で、一番難しいこと。大人になり、社会に出ても、周囲の人と良好な関係を築いてそれを保ち続けることは、簡単なことではありません。家族であれば、「わかってくれているはず」、そんな甘えや期待がコミュニケーションを不十分にしてしまうこともあります。私たち大人も、失敗したり思うようにいかない経験を今も繰り返しています。年末が近づいてきました。今年一年を振り返り、新しい年を迎えるにあたって、身近な人に、感謝の気持ちを伝えてみませんか。

*今年度の『なりすな』は、学期ごとに発行しています。生徒の皆さんはこの便りを持ち帰り、家庭等でも「人権」について語り合うきっかけにしてください。感想もお待ちしております！

<人権教育推進スタッフ：森脇・山岡・小村・青木・小中>

